

指扇小だより

教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたく

令和8年3月26日 第12号
さいたま市立指扇小学校
〒331-0078
さいたま市西区西大宮1丁目49-6
電話 048-623-0133 FAX 048-624-2200
<https://sashiogi-e.saitama-city.ed.jp>

「忘れる力」

校長 小松 伸弘



桜の花が一つまた一つと開花し、肌に触れる風に春の香りを感じる季節となりました。一年を終えた今、子どもたちの表情には、次の学年を意識した高揚感のようなものが見られます。同時に、クラスの仲間や先生との別れを名残惜しむ姿も見られました。

学校で過ごす日々を振り返ると、子どもたちは多くの時間を人との関わりの中で過ごしてきたことに気付かされます。時には友だちを傷つけることを言ってしまうたり、あるいは私たち大人に嘘をついたり、反抗したりする姿が見られることもあります。こうした言動に私たち大人は驚いたり不安を感じたりしてしまいがちですが、これもまた成長の一つの形。学齢期になると、子どもの成長は以前ほど分かりやすい形では見えにくくなり、その内容も客観的に見るとネガティブに映ってしまうことがあるのです。

学校は学習の場であると同時に、子どもたちが人と関わりながら成長していく小さな社会でもあります。友だちとの衝突や気持ちの行き違いを経験する中で、子どもたちは他者との距離感を身に付けると同時に、自らの影の部分にも気付かされます。こうして、来るべき思春期に向けて自分という輪郭を少しずつ整えていきます。

ところで、成長過程で子どもが少しでも嫌な思いをしないようにと、私たち大人が先回りして問題を取り除こうとしてしまうことがあります。しかしながら、学齢期の子どもたちには、困難を乗り越えるための大切な力が、すでに備わっているのです。

それは「忘れる力」です。児童精神科医の佐々木正美さんは、著書『子どもの心の育て方』の中で、叱られたり失敗したりしても、それを引きずらずに忘れられることこそが、子どもの長所であると述べています。忘れる力があるからこそ、失敗しても立ち上がることができ、友だちと喧嘩をしても、また関係を結び直すことができます。忘れることは、未熟さではなく、立ち直るための力なのです。

子どもたちは、立ち直り、関係を結び直す経験を日々積み重ねることによって、私たち大人の目には見えにくい力を確実に育てています。春休み、御家族で過ごす時間の中で、「この子は今どんな成長の途中にいるのだろう」という問いをもってお子さんを見つめ直していただけたら、今まで気付かなかった発見があるかもしれません。

この一年、指扇小学校の教育活動に対して、保護者の皆様、そして地域の皆様から、多くの御理解と御協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

来年度も、子どもたち一人ひとりの成長を、共に見守っていけたら幸いです。